

さんぱく 93

日本産業技術史学会々報 2019. 11

事務局より
2020年度年総会について
第19期役員選挙の告示
学会賞推薦受付の告示
第2回理事会議事録

事務局より

来年度の年総会 6月20日-21日(講演会・研究発表、総会、見学会)、富岡製糸場(群馬県富岡市)にて開催します。

次期役員選挙について 第19期役員選挙を実施します。詳しくは当該ページをご覧ください。

学会賞の推薦受付 規程に従い、推薦・自薦をお願いします。

会費納入のお願い 会誌『技術と文明』22巻2号とともに会費の請求書とゆうちょ払込用紙(払込料金学会負担)をお送りいたします。会費未納の方は、納入をお急ぎ下さい。学会運営の安定のためご協力をお願いします。会費納入に関する問い合わせは office@jshit.org へ。

年会費：一般 7,000 円、学生 5,000 円

振込先：ゆうちょ銀行 00980-3-21800

りそな銀行千里北支店 2477167

りそな銀行への振込では所定の手数料を差し引いて送金してください。

2020年度(第36回)年総会について

東京大学・鈴木淳教授のお世話で、6月20-21日に富岡製糸場にて開催します。第35回総会(神戸山手大学)時に、2020年度の年総会は東京大学を会場とする旨ご説明しましたが、その後、富岡製糸場からもご提案があり、理事会にて協議した結果、富岡製糸場で開催することを決定致しました。

保存修理工事完成後の西繭置場を、同年秋の一般公開に先立って見学できる得難い機会です。またシンポジウム「産業技術史から見た富岡製糸場」(仮称)の開催も計画しています。

詳細は「さんぱく」次号以降で、またホームページに逐次掲載します。

一般講演の申し込みについて今年度と同様、

- 1) 一般講演報告の登壇は1人1件とします。(他の登壇者の報告での連名については問わない)
 - 2) 登壇者が会員外の場合は会員が連名であること。(会員外報告者の入会を望みます)
 - 3) 申込みの締切は2020年3月31日とします。
 - 4) 表題・報告者氏名(登壇者に○を付す)に、講演概要(100字以内、プレーンテキスト厳守願います)を付し、学会事務局 office@jshit.org まで、電子メールにて申し込んでください。折り返し講演要旨(1件4ページ)原稿の執筆要綱及びテンプレートを送ります。
- ・報告者と講演タイトルおよび「概要」を、2020年4月中旬に「さんぱく」に掲載します。
 - ・講演要旨は当日配布とします。
 - ・お問い合わせは、学会事務局まで、電子メールまたは郵便にて願います。

意見・要望・提案があれば office@jshit.org まで寄せてください。

第19期(2020、2021年度)役員選挙 選挙管理委員会の発足

選挙管理委員会が発足しました。

井上尚之先生(神戸山手大学)、株本訓久先生(武庫川女子大学)、田口直樹先生(大阪市立大学)に選挙管理委員を依頼しました。

第19期(2020、2021年度)役員選挙の告示

日本産業技術史学会役員任期満了にともない、第19期役員選挙を告示する。

日本産業技術史学会選挙管理委員会

選出役員 理事16名 監事2名

立候補・推薦の方法

1. 被選挙人は、選挙公示時点での正会員で、2018年度までの会費を完納した者とし、理事及び監事は選挙人の自薦及び選挙人からの他薦による立候補制とする。
2. 理事候補者の所属選出区は、事務局に登録された住所もしくは所属機関の住所を選択し届け出る。(下表)。

3. 選挙人は理事候補者を推薦することができる。選挙管理委員会は推薦を受けた候補者について推薦の受諾を確認のうえ候補者を公示する。
4. 立候補もしくは推薦は次の書式により封書郵送により選挙管理委員会まで届け出ること。

[立候補・推薦書式]

所属選出区： _____
 立候補・推薦の別： _____
 立候補者氏名または被推薦者氏名： _____
 推薦の場合推薦者氏名： _____

[立候補書・推薦書の送付先]

〒535-8585 大阪市旭区大宮 5 丁目 16 番 1 号 大阪工業大学知的財産学部 廣田研究室内 日本産業技術史学会事務局気付 選挙管理委員会

5. 選挙の日程

立候補・推薦受付締切り 2020 年 1 月 15 日（水）（当日消印有効）
 候補者の公示 2020 年 2 月 5 日（水）
 投票締切り 2020 年 3 月 15 日（日）（当日消印有効）
 選挙結果の発表 2020 年 4 月中旬（「さんぱく」紙上）

選出区	対応する都道府県
北海道	北海道
東北	青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島
関東	東京、埼玉、群馬、神奈川、栃木、茨城、千葉
中部・北陸	新潟、富山、石川、福井、長野、山梨、静岡、愛知、岐阜、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国・四国	鳥取、岡山、島根、広島、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州	福岡、熊本、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

日本産業技術史学会役員選挙規定

第 1 章 総則

(適用の範囲)

第 1 条 理事及び監事の選挙は、会則の定めるところのほか、この規程によって行なう。

(選挙の管理)

第 2 条 理事及び監事の選挙は、選挙管理委員会が管理する。

第 2 章 選挙管理委員会

(委員会の任務)

第 3 条 本学会の役員選挙を公正に執行管理するため、選挙管理委員会を置く。

(選挙管理委員会)

第 4 条 1 選挙管理委員会は、会員の中から理事会の議によって会長が委嘱した 3 名の委員をもって構成する。

2 委員がこの規定による選挙の候補者となった際は、選挙の終了まで委員の資格を停止する。

第 3 章 理事及び監事の選挙

(役員の数)

第 5 条 理事の定数は 16 名、監事は 2 名とする。

(選挙人)

第 6 条 選挙人は正会員とする。

(被選挙人)

第7条 1 被選挙人は正会員とする。但し、前年度までの会費を完納していることを要する。

2 理事及び監事の立候補は、自薦もしくは正会員の他薦によるものとする。

3 他薦にあたっては、本人の立候補の意志を確認しなければならない。

4 理事の選出区として、北海道、東北、関東、中部・北陸、近畿、中国・四国、九州の7地区に分ける。理事の立候補者は、現住所もしくは勤務地所在地のいずれかを、その選出区とする。

(選挙の方法)

第8条 1 投票は選出区に関わらず全候補者に対し行う。

2 投票の結果、得票した有効投票の順に定められた定数までを当選人とする。なお、定数内の最下位得票者が複数名となった場合は、学会員として在籍期間の長い順に当選人とする。

3 立候補のあった選出区において前項に定める当選人がない場合、前項の規定に関わらず当該選出区における上位候補者1名を当該地区選出の理事とする。

附則

本選挙規定は、平成11年8月14日より執行する。

平成24年10月28日、一部改正

平成29年6月24日、一部改正

第33回日本産業技術史学会賞の推薦受付

標記学会賞の推薦を下記のように受け付けます。

募集する学会賞の区分 学会賞、奨励賞、資料賞および特別賞

対象業績 産業技術史研究に関わる業績であって、2017年1月1日から2019年12月31日までに公刊されたもの(刊行物の奥付の日をもって公刊の日とする)。

推薦 自薦、他薦を問わない。

推薦者 本学会会員に限る。

各賞の対象区分

学会賞 会員の業績であって、特に優れた学術的著書もしくはそれと同等のもの

奨励賞 会員の業績であって、「学会賞」に準ずる著書及び学会誌に掲載された一連の論文(同一筆頭著者、2本以上を条件とする)

資料賞 会員の業績であって、資料を紹介した優れたもの

特別賞 会員外の業績であって、産業技術史に深くかかわる特段に優れたもの

推薦手続きについて

○ **7ページに示す様式**による推薦書を簡易書留により、候補業績一部を添え(必須)下記送付先に送ってください。候補業績は、審査終了後返却します(返送料は当会負担)。

○ 送付先、535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1

大阪工業大学知的財産学部気付

廣田研究室内 日本産業技術史学会賞選考委員

○ 推薦締め切りは、2020年1月15日(当日消印有効)とします。

問い合わせは、office@jshit.org まで。

なお、応募業績は、学会会員の内より学会理事会が選任した委員3名で構成する審査委員会で審議され、学会賞受賞者を決定し、当該年度の学会総会において学会賞を授賞します。授賞式に引き続き、受賞者には受賞講演を行っていただきます

日本産業技術史学会賞規定

1. 日本産業技術史学会（以下、学会と記す）に寄贈された基金により、「日本産業技術史学会賞」を設立する。
2. 基金寄贈者の意思を尊重し、基金は特別会計として独立に管理する。
3. 賞は産業技術史研究の優れた業績に対して授与するものとし、次の5種類をおく。
 - 1) 学会賞 特に優れた学術的著書もしくはそれと同等の業績に対し授与する。
 - 2) 奨励賞 「学会賞」に準ずる著書及び学会誌に掲載された一連の論文(同一筆頭著者、2本以上を条件とする)に対し授与する。
 - 3) 資料賞 資料を紹介した優れた業績に対して授与する。
 - 4) 特別賞 特に優れた業績に対して授与する。
 - 5) 優秀論文賞 前年の会誌『技術と文明』に掲載された論文から特筆すべきものを選定し表彰する。
4. 学会賞、奨励賞、資料賞及び優秀論文賞は、学会会員の業績を対象とする。特別賞は会員以外の業績を対象とする。
5. 学会賞、奨励賞、資料賞及び特別賞は毎年授与する。ただし、各賞を授与すべき業績がない場合は当該年の授与をおこなわない。受賞対象の業績は、授与前年の12月31日より遡って3年以内に公刊されたものとする。なお刊行物の奥付の日をもって公刊の日とみなす。
6. 学会賞、奨励賞、資料賞及び特別賞の授与対象論文は公募とし、会員による自薦および他薦による。公募の方法については別に定める。
7. 学会賞、奨励賞、資料賞及び特別賞の応募業績については、学会々員の内より学会理事会が選任した委員3名で構成する審査委員会で合議のうえ、受賞者を決定する。なお、必要に応じ他学会々員を審査委員会委員に加えることができる。
8. 「優秀論文賞」は、編集委員(冊子版及び電子版)による投票に基づき編集委員会が決定する。
9. 受賞者には副賞として学会賞、特別賞に各10万円、奨励賞、資料賞に各5万円、優秀論文賞に3万円を贈る。
10. 授賞は当該年度の学会総会の際に行う。学会賞及び特別賞の受賞者には総会と同時期に行われる学会年会で受賞講演を行う機会が与えられる。

(付則)

1. この規定は1988年度から実施する。
2. 基金寄贈者の氏名はその意思を尊重して、当分の間、公表しないこととする。
3. この規定は2017年10月3日に改定し、施行する。

2019年度第2回理事会議事録

日時：2019年10月6日（金） 14:00～16:00

場所：東京大学文学部 日本史学研究室

出席者：麓和善，廣田義人，鈴木淳，堀尾尚志，田中一郎，石村眞一，天野雅敏，平野恭平，武藤夕佳里，馬淵浩一，市川浩，亀井修

欠席：橋本毅彦，夏目賢一，山田大隆

報告

1. 本会運営の状況（財務・会費納入状況等）について
廣田理事より、資料に基づいて、説明があった。
・会費の納入が遅れ気味であるが、それ以外は概ね順調である。
2. 本会運営の状況（会員の動向等）について
廣田理事より、会員の入会、退会の状況について説明があった。

・2017年名簿137名より減少し現在130名。新入会者もあるがご逝去された方も有り減少した。

3. 会誌（冊子版）の編集及び発行予定について

田中理事より、22巻2号の編集状況について説明があった。

・査読論文3本、書評2本の掲載を予定している。10～11月初旬に発行。日付は10月。送付時期は他の送付物と合わせて調整。

・次号は春、論文は予定2本、その他2本の計4本。64ページ以上にする必要あり。

4. 会誌（電子版）の編集及び配信予定について

石村理事より説明があった。

・再投稿があつて掲載した。

5. ホームページ及び『さんぱく』の担当者の交代について

・堀尾理事、廣田理事から麓会長・名工大・濱田准教授、馬淵理事に交代。

・さんぱく92号：今回はメール添付で配信した。希望の人へは郵送。今後はBCCで送る。

6. その他

なし。

議 事

1. 2020年度の年会開催予定地について

鈴木理事より、会場を東大から富岡製糸場に変更する案が、資料に基づいて説明され、了承した。

・日程は2020/6/20-21, 2020/6/27-28あたりか（その後、6/20-21で決定）。

・事例：初日の午後から見学会、夜理事会、翌日1日かけてシンポジウム・発表・総会、その日の夜に懇親会。

・富岡市民の方にも聞いてもらえる機会が提供できないか。テーマ設定も場に即したのものにしてはどうか。何が大事か何を残すかを検討しながら、従来の社寺建築とは違う修復方法を決めたこと、などが考えられる。

・その地方の新聞社とテレビ局に流す。

・産業技術史的視点であればよいのではないか。利活用の提案も可能ではないか。賛否あり。進行中のものについて否定的なことは主張しないほうがよいのではないか。

2. 第19期役員選挙について

麓会長、廣田理事から説明があり、了承した。

・選挙管理委員会2名、井上氏と株本氏あるいは田口氏に依頼する。事務局の廣田理事との連携に考慮する。その後、告示を次の『さんぱく』（11月号）に載せ、前例を踏襲して進める。

3. 組織拡大について

石村理事より、資料に基づいて説明があり、議論した。

・あの手この手を繰り返す。魅力的な研究が重要ではないか。論文の数で勝負。学際領域にいる人間にとっては魅力的である。多様なことが学際的なこと。

・データを集めて論議してはどうか、大学院生で研究者志望が激減している。大学院は、中国人と退職者で成り立っていく時代の、学会経営の視点が必要。学会員や活動が縮小するのはやむを得ないことである。技術史系の学会を糾合して行くことが必要である。欧文誌が必要、日本語で書いても研究者評価にならない。

・縮小に耐えるレジリエンスという視点での検討も必要ではないか。

4. その他

運営体制強化のため「事務局長」を正式に決める。現在、事務局を大阪工業大学知的財産学部 廣田研究室に設置しているが、廣田理事は副会長である。将来的には事務局の移転も検討する必要があるが、当面は廣田理事に副会長と事務局長を兼任していただくこととした。

(推薦書様式)

第 33 回日本産業技術史学会賞推薦書

下記の業績を、.....賞候補として推薦します。

.....年月日

推薦者氏名 印

記

候補者氏名

候補業績

内容要約及び推薦理由

- A4 (本ページを含め 2 枚以内) で作成してください。
- 推薦者及び候補者の連絡先を文末に記してください。

日本産業技術史学会々報「さんぱく」93 ISSN 0912-8476

発行日 2019 年 11 月 1 日

発行・編集 日本産業技術史学会

大阪市旭区大宮 5 丁目 16 番 1 号

大阪工業大学知的財産学部 廣田研究室